

2023 10

# ナイル

## 現代短歌ナイル

### 【今月の歌】

秋山義仁、井村清美

\*\*\*

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

8月号作品批評／宮本史一(心の花)

\*\*\*

「愛する」ってなんだ？

野口あやこ歌集合評会に参加する／二方久文

\*\*\*

大野とくよ師 偲ぶ会のこと／小村井敏子

# NILE CAMPUS

292

伯梅閑話 —— 五代目高砂屋福助 ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

思いがけなく、十三代目市川団十郎白猿襲名披露公演を観ることができた。口上で高砂屋四代目中村梅玉が出ていたので、高砂屋福助を思い出した。高校時代から、歌舞伎座の幕見に通っていた。大学生のときだった。忠臣蔵の判官切腹を観た。国家老の大星が判官切腹に駆けつけるという。史実ではありえない場面だ。江戸時代の史実を鎌倉時代にしたのは忠臣蔵なのだ。大石内蔵助（おおいし くららのすけ）は大星ゆらのすけ。まだ来ないかと判官が何度も。その中で、上使の役で出て来た役者を観たとたんすかつとした。誰だろうと調べたら、五代目中村福助（高砂屋）だった。また観たいと思ったが出ていない。当時、「演劇界」を購読していたので、「演劇界」に問い合わせ、別府の病院に入院していることを知った。ちょうど、大分に行くことがあって、見舞いに行った。その後、亡くなってしまったが、葬儀に行ったり、お宅に弔問したりで、高砂屋夫人笹木笑子（ささき えみこ）と縁ができて、私の車に乗せてあちこち行くこともあった。梅玉の死に絵を松竹のもぎさんが受け取りに来たとき立ち会ったりした。

中村福助を誰が継ぐかで色々あったと聞いている。その結果、中村福助が二人いた。高砂屋と成駒屋だ。あとを継ぐ者がいなければ絶えることになっていた。高砂屋の福助の息子は役者にならなかつたので高砂屋福助は絶えた。高砂屋福助は、三代目中村梅玉の養子。亡きあと、親類ではない方で、梅玉を継ぎたい方があったと夫人から聞いた。そのとき、色々あったとしても、梅玉は親類の成駒屋に渡すのが筋ではないかと高砂屋のおばさまに言った記憶がある。笑子夫人が梅玉を成駒屋に渡すときそれを覚えていらしたかどうかはわからない。伯龍と結婚したときから連絡が絶えたからだ。